

国立国語研究所学術情報リポジトリ

現代漢語の語構造

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2020-06-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 野村, 雅昭 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/00002866

現代漢語の語構造

野村 雅 昭

(第三資料研究室員)

1. 語構造の記述

○ 語構造—すでに形成された、ある言語単位がどのような部分要素の結合によって構成されているかという事実。

(阪倉篤義氏の定義による)

○ この発表の目的—新聞語彙調査に出現した、長単位語とよばれる言語単位について、その構成要素(部分要素)があるパターンによって結合しているスタティックな形態の分析。

- ・ 長単位語—文節から付属語を除いたものとはほぼ等概念。
- ・ 構成要素—最小単位(現代語として意味をになっている最小の言語単位。)

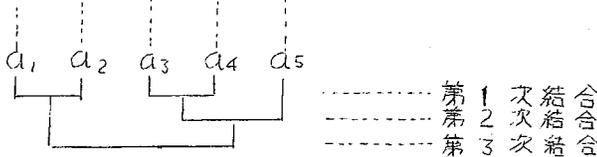
○ 語構造の一般式化

構成要素 → a

n 個の構成要素からなる語(n 単位語) → $P(n)$

$$P(n) = a_1 + a_2 + a_3 + \dots + a_{n-1} + a_n$$

(例) 無 形 文 化 財



$$P(5) = (a_1 + a_2) + \{(a_3 + a_4) + a_5\}$$

$$P(4) = \{(a_1 + a_2) + a_3\} + a_4 \quad ; \text{庶務課長}$$

$$P(5) = \{(a_1 + a_2) + (a_3 + a_4)\} + a_5 \quad ; \text{座席指定車}$$

$$P(6) = (a_1 + a_2) + \{(a_3 + a_4) + (a_5 + a_6)\} \quad ; \text{後期中等教育}$$

・ n 単位語は一般に、 $(n-1)$ 回の結合をし、最大 $(n-1)$ の結合次数を持つ。

○ 一般式の変換

$$a \rightarrow u \quad u+u = U \quad (u_1+u_2 \neq u_2+u_1)$$

$$U+U = V$$

$$(u+u)+u = U+u = \mathcal{V}_p$$

$$u+(u+u) = u+U = \mathcal{V}_q$$

$$\{(u+u)+u\}+u = \mathcal{V}+u = \mathcal{W}_p$$

$$u+\{(u+u)+u\} = u+\mathcal{V} = \mathcal{W}_q$$

$$[\{(u+u)+u\}+u]+u = \mathcal{W}+u = \mathcal{X}_p$$

$$u+[\{(u+u)+u\}+u] = u+\mathcal{W} = \mathcal{X}_q$$

$$\text{(例)} P_{(5)} = (u_1+u_2) + \{(u_3+u_4)+u_5\} = U + \mathcal{V}_p ; \text{無形文化財}$$

$$P_{(4)} = \{(u_1+u_2)+u_3\}+u_4 = \mathcal{V}_p+u ; \text{庶務課長}$$

$$P_{(5)} = \{(u_1+u_2)+(u_3+u_4)\}+u_5 = V+u ; \text{座席指定車}$$

$$P_{(6)} = (u_1+u_2) + \{(u_3+u_4)+(u_5+u_6)\} = U+V ; \text{後期中等教育}$$

2. 調査の対象

- 対象一昭和47年朝日新聞朝刊(1月~6月)社会面に出現した、
約8,000長単位語(異なり)。

次の(i)~(iii)に該当するものを対象から除いた。

- (i) 記号および記号を構成要素に含むもの。
- (ii) 数詞および数詞を構成要素に含むもの。
- (iii) 固有名詞および固有名詞を構成要素に含むもの。

以上の操作を経て残ったものの中から、さらに次の(iv)・(v)に該当するものを直接の対象から除いた。

- (iv) 漢語(字音語)を構成要素に含まないもの。
- (v) ニつ以下の構成要素からなるもの。

※₁ サ変動詞や形容動詞は、その語幹部分にのみ着目した。

※₂ 狭義の接辞(「ま」「に」「が」「は」など)を最終次結合の一方に持つのは、それを除いた部分に着目した。(例外: ママさん社長 大御所格)

- 直接の対象一約1,500長単位語(漢語構成要素のみからなるものおよび漢語構成要素を含むもので、三つ以上の構成要素からなるもの。)

表2 出現したすべての語例の結合パターンによる分類

*1 分類の基準は二項式の結合次数の少ないほうのパターンによる。
 *2 パターンの右横の数字は語数を示す。計の欄のA/BのAはパターン数、Bは語数を示す。

位置	単位数	3	4	5	6	7	8	9	10	計
u	前	u+U 142	u+v _p 22	u+V 3 u+(v _p +u) 2			u+(U+V) 1 u+(V+U) 1			6/171
	後	U+u 574	v _p +u 44 v _q +u 8 {(u·u)xu}+u 2	V+u 57	(V+u)+u 4 (U+v _p)+u 5 (U+v _q)+u 2 (v _p +U)+u 2 (v _q +U)+u 3 x _p +u 1	(V+U)+u 2 (U+V)+u 1 y _g +u 1	(V+v _p)+u 2 {(V+U)+u}+u 1			16/709
	小計	2/716	4/76	3/62	6/17	5/6	2/3			22/880
U	前			U+v _p 39 U+v _q 3 U+(u+u+u) 1	U+V 8	U+(V+u) 2 U+(U+v _p) 1 U+(v _q +U) 1	U+(V+U) 1			8/56
	後		U+U 443	v _p +U 32 v _q +U 13 (u+u+u)+U 3	V+U 35	(V+u)+U 2 (v _p +U)+U 3 (v _q +U)+U 2 (U+v _p)+U 1 (u+V)+U 1	(V+U)+U 2 (V+v _p)+U 1	{(V+U)+U}+U 1		13/539
	小計		1/443	6/91	2/43	8/13	2/3	1/1	1/1	21/595
v	前					v _p +V 2 v _q +V 1	v _p +(V+u) 1			3/4
	後				v _p +v _p 3 v _q +v _p 2 v _p +v _q 1	V+v _p 6	(v _p +U)+v _p 1 (V+u)+v _p 1			6/14
	小計				3/6	3/9	3/3			9/18
V	前						V+(u+v _p) 1			1/1
	小計						1/1			1/1
V+u	前							(V+u)+(v _p +u) 1		1/1
	小計							1/1		1/1
合計	前	1/142	1/22	5/48	2/9	7/9	3/3	1/1		20/235
	後	1/574	4/497	4/105	9/57	9/19	5/7	1/1	1/1	34/1260
	計	2/716	5/519	9/153	11/66	16/28	8/10	2/2	1/1	54/1495
その他	(u·u)xu 3 (u+u+u) 1	(u·u)xU 1 (u+u+u)xU 1 (u+u+u+u) 4								5/10
総計	4/720	8/525	9/153	11/66	16/28	8/10	2/2	1/1	59/1505	

3. 語構造のパターン

表1 対象となった長単位語の構成単位数別語数

単位数	語数 (百分比)
3	720 (47.8)
4	525 (34.9)
5	153 (10.1)
6	66 (4.4)
7	28 (1.9)
8	10 (0.7)
9	2 (0.1)
10	1 (0.1)
計	1,505 (100.0)

表4 構成単位数と結合次数の関係

単位数 \ 次数	2	3	4	5	6
3	2	X	X	X	X
4	2	3	X	X	X
5	2	6	1	X	X
6	-	5	5	1	X
7	-	3	12	-	1
8	-	-	7	1	-
9	-	-	2	-	-
10	-	-	-	1	-
計	6	17	27	3	1

表3 最終次結合の位置別によるパターンの分類

	前部分		後部分		計	
	パターン数	語数	パターン数	語数	パターン数	語数
u	6	171	16	709	22	880
U	10	1073	14	681	24	1754
[v _p	6	83	7	74	13	157
[v _q	4	24	2	4	6	28
[v+u	-	-	2	3	2	3
[u+v	-	-	1	1	1	1
x _p	1	1	-	-	1	1
y _q	1	1	-	-	1	1
V	4	99	4	14	8	113
[V+u	4	8	2	3	6	11
[u+V	1	1	-	-	1	1
[V+U	5	11	1	1	6	12
[U+V	3	8	1	1	4	9
[V+U	2	4	2	2	4	6
[U+V	1	1	1	1	2	2
V+v	2	3	-	-	2	3
(V+U)+u	1	1	-	-	1	1
(V+U)+U	1	1	-	-	1	1
(u+u+u)	1	3	1	1	2	4
(u·u)×u	1	2	-	-	1	2
計	54	1495	54	1495	108	2990

1°最終次結合の一方の部分に出現するパターンとしては、 U と u が多く、 V がそれに続いている。また、それぞれのパターンに所属する語数では U が圧倒的に多く半数以上を占め、 u がそれに続く。そのほかは、 V と V に属する語がやや多い程度で、他はきわめて少ない。

2°前部分にくるパターンでは、 U と v が多いが、ほかのパターンも多くあらわれる。語数では、 U に属するものが圧倒的に多い。

3°後部分にくるパターンでは、 u 、 U が多く、この二つのパターンに所属する語数は、全体の90パーセントを越える。

4°上記の2°と3°を合わせると、複次結合語のパターンとしては $U + \square$ 、 $\square + u$ 、 $\square + U$ の三つがもっとも一般的だと言える。

5° u は、前部分にくることが少なく、 $\square + u$ という型をとることが多い。

6° U は、前部分にくることが多いが、 $U + u$ 、 $U + U$ 、 $u + U$ の三つのパターンを除いて比較すると、 $\square + U$ に属するパターン、語数のほうが、 $U + \square$ のそれよりも多い。

7° u や U が後部分にくる場合が多いことは、全体として、複次結合語の構造上の特徴として、前部分が重く、後部分が軽いパターンをとりやすいことを意味している。

8°構成要素の数が多き語では、前部分と後部分が構成単位数や結合次数で等質的なパターンはあらわれにくくなる。すなわち、 U （あるいは v ）が累加的に結合した構造をとるのが一般的である。

9°上記の8°から、構成単位数と結合次数の間には、次のような関係が見られる。すなわち、次数の極端に高いものと低いものはあらわれにくく、平均的な結合次数に集中する傾向がある。

[主なパターンとそれに所属する語例]

○3単位語

① $u + U$: 食中垂糸工費市当局核軍縮不明朝大規模

各選手全理事荒れ模様初会合ガス爆発ダクソー会社

② $U+u$: 現代人, 占領軍, 新築中, 家庭用, 全国的, 具体化

現金払い, 救助袋, 組合長, 組立式, 非常ボタン, 石油ストーブ

③ $(u \cdot u) \times u$: 重軽傷, 青少年, 新增設

④ $(u+u+u)$: 経団連

○ 4 単位語

⑤ $u+v_p$: 軽飛行機, 各管制塔, 同動物園, ジェット旅客機

⑥ v_p+u : 幼稚園児, 郵便局長, 警備員室, 解剖学者, 不動産屋

⑦ v_q+u : 中学校長, 大御所格, 不景気風, クレー射撃用

⑧ $U+U$: 火災防止, 公共事業住所氏名, 期末手当, ママさん社長

⑨ $\{(u \cdot u) \times u\} + u$: 青少年法, 小中学生

⑩ $(u \cdot u) \times U$: 小中学校

⑪ $(u+u+u) \times u$: 市町村長

⑫ $(u+u+u+u)$: 市区町村, 都道府県

○ 5 単位語

⑬ $u+(v_p+u)$: 同事務所長, 同刑事部長

⑭ $u+V$: 準保護世帯, 各郵便局番, 都清掃条例

⑮ $V+u$: 試験放送中, 有線放送網, 行政区画名, 売春防止法

⑯ $U+v$: 地下核実験, 大型外航船, 組合委員長, 女子作業員

⑰ $v+U$: 再編成論議, 道德的観念, 大使館公邸, 旅客機事故

○ 6 単位語

⑱ $(V+u)+u$: 都市交通課長, 宇宙開発史上

⑲ $(U+v)+u$: 身体不自由児, 航空代理店員

⑳ $(v+U)+u$: 小学校入学児, 自動車修理工

㉑ X_p+u : 中学校長会長

㉒ $U+V$: 脳性小児マヒ, 事故合同会議

㉓ $V+U$: 消費減退傾向, 高校全入運動

㉔ $v+v$: 社会科副読本, 野鳥用給水池

○ 7 単位語

㉕ $u+(U+V)$: 新長期経済計画

㉖ $u+(V+U)$: 都児童福祉協会

- ⑳ (V+U)+u : 議員手当条例中
- ㉑ yg+u : 都中学校長会長
- ㉒ U+(v+U) : 国鉄新幹線総局
- ㉓ U+(V+u) : 都立工業奨励館
- ㉔ (v+U)+U : 業務上過失傷害
- ㉕ (U+v)+U : 経済審議会会長
- ㉖ v+V : 代表的航空企業核兵器完全禁止
- ㉗ V+v : 公営企業委員会, 専用水道調査表

○ 8 単位語 :

- ㉘ (V+v)+u : 強風波浪注意報下
- ㉙ {(V+U)+u} : 事務管理統計部長
- ㉚ (V+U)+U : 設置反対期成同盟
- ㉛ v+(V+u) : 警視庁交通規制課
- ㉜ (V+u)+v : 姿勢制御用小型口ケット
- ㉝ V+(u+v) : 現場調査小委員会

○ 9 単位語

- ㉞ (V+v)+U : 公正取引協議会会長
- ㉟ (V+u)+(v+u) : 姿勢制御用窒素ガスジェット

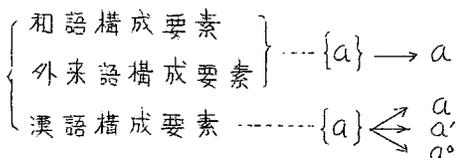
○ 10 単位語

- ㊱ {(V+U)+U)+U : 物価安定対策推進本部

4. 複合語の安定度

○ 構成要素の性格

- ・ 構成要素である最小単位 a は、語種や文法的性質の相違によって必ずしも等質ではない。
- ・ 一般に { 和語構成要素・外来語構成要素 → 自立的結合力は弱い
漢語(字音語)構成要素 → 非自立的結合力は強い }



a : 1次結合語の全要素, 総工費, 女店員, 核軍縮, 赤道橋, 教育者, 地方税

a' : 不人情, 有意義, 全国的, 具体化, 工事中, 家庭用

a° : 同知事, 前総裁, 各気象台 (学長兼理事長) (与党对野党)

$a+a=A$

$a+a=A$: 海水・道路・月夜・親子・麦踏み・コムひも・ガス管

$a+a=A'$: 対処・専念・共通・完全・活発・病的

興信(所)・顕微(鏡)・(不)世出・抗生(物質)

$A+a=A$: 飛行機・現代詩・組合員・投書箱・防火造り・銀行マン

$a+A=A$: 貴金属・悪影響・法秩序・夏野菜・若夫婦・ガス爆発

$A'+a=A$: 後遺症・香辛料・可能性・清潔感

$a+A'=A$: (四天王)

$A+a'=A'$: 政治的・絶望視・積立式・現代風

$a'+A=A'$: 大規模・不景気・無気力・未経験

$A'+a'=A'$: 深刻化・抜本的

$a'+A'=A'$: 最優秀・不正確・無器用・超豪華

$(A+A)+a=(A+A)$: 有線放送網・行政区画名

$(A+A)+a'=(A+A)'$: 暴露戯術的・年中行事化

$a^\circ+(A+A)=a^\circ-(A+A)$: 現国鉄総裁

cf $A-a-A$: 与党对野党

○ 複次結合語の構成単位

$u+v_p$ (軽飛行機) = $a+(A+a) = a+A=A$

v_p+u (幼稚園児) = $(A+a)+a = A+a=A$

$U+U$ (火災防止) = $A+A$

$U+v$ (地下核実験) = $A+(a+A) = A+A$

$v+U$ (道德的観念) = $(A+a')+A = A'+A$

$(V+u)+u$ (都市交通課長) = $\{(A+A)+a\}+a = (A+A)+a = (A+A)$

$(U+v)+u$ (身体不自由児) = $\{A+(a'+A')\}+a = (A+A')+a = (A+A')$

x_p+u (中学校長会長) = $\{(a+A)+a\}+a$

= $\{(A+a)+a\}+a = (A+a)a = A+a=A$

$$V+U \text{ (消費減退傾向)} = (A+A) + A$$

$$v+v \text{ (野鳥用給水池)} = (A+a') + (A+a) = A' + A$$

$$u + (U+Y) \text{ (新長期経済計画)} = a + \{A+(A+A)\} = \underline{A+(A+A)}$$

$$(v+U)+U \text{ (業務上過失傷害)} = \{(A+a') + A\} + A = (A+A) + A$$

$$v + V \text{ (代表的航空企業)} = (A+a') + (A+A) = A' + (A+A)$$

$$\{(V+U)+U\} + u \text{ (事務管理統計部長)}$$

$$= \{ \{ (A+A) + A \} + a \} + a = \{ \underline{(A+A) + A} \} + a = \underline{(A+A) + A}$$

$$(V+u)+v \text{ (姿勢制御用小型ロケット)}$$

$$= \{ (A+A) + a' \} + (A+a) = \underline{(A+A)'} + A$$

- 複次結合語の安定度は、 $A+A$ のパターンのときにもうとも高く、構成単位数がふえるにしたがって、安定度は失なわれる。

- $a + \square, \square + a$ のパターンでは \square の部分の構成単位数がふえるほど、 a の結合力は失われる。

$$v_p + u \rightarrow U + U : \text{庶務課長・郵便局長・解剖学者}$$

$$v_p + u = A \rightleftharpoons U + U = A + A$$

$$V + u \rightarrow U + v : \text{沿岸警備隊・宇宙飛行士・入試改善策}$$

$$V + u = \underline{(A+A)} \rightleftharpoons U + v = A + A$$

$$\begin{cases} u + U \text{ (タクシー会社)} = a + A = A ; (a + a) + A = (A) + A \\ U + U \text{ (運送会社)} = A + A \end{cases}$$